

勉誠社

東方学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: f0642dd7d7
(期限: ~2024年7月31日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: f0642dd7d7 (期限: ~2024年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 3000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
東方学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp
電話 03-5215-9021
FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト

2023～2024年新刊・近刊書籍（黄色マーカーは展示書籍） **20%引き**

書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価	割引価格	注文数
■事典・総記■						
世界神話伝説大事典（オンデマンド版）	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	22,000	
江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,200	
書物学 第25巻 古典籍の文献学—鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2,200	1,800	
書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり—近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723	2,200	1,800	
書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ —香雪美術館書画コレクションを支える装潢修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600	
書物学 第22巻 禅寺の学問—相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,600	
■歴史・文化財・美術史・思想史■						
近刊 和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700	
近刊 近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044-9	14,300	11,400	
近刊 永平廣録 大全—『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに 解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017-4	71,500	57,200	
近刊 増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047-0	9,900	7,900	
近刊 戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表/カストリ雑誌編集委員会 編	2024/05	39039-8	3,080	2,500	
増補改訂版 図像学入門—疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2,640	2,100	
古文書修復講座—歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修/関口博巨 編	2024/03	32035-7	4,180	3,300	
三井大坂両替店の顧客信用情報—享保—七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042-5	16,500	13,200	
「見える」ものや「見えない」ものをあらす —東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15,400	12,300	
湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7,700	6,200	
器と信仰—東アジアの舍利荘嚴をめぐる美術史・考古学からのアプ ル	加島勝 編	2024/03	32041-8	16,500	13,200	
彰義隊士の手紙—続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036-4	22,000	17,600	
日本近世史入門—ようこそ研究の世界へ！	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美 編	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
コレクションと歴史意識—十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のま た	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著/野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9,900	7,900	
泰山諸神の信仰の展開—東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000	
物語る仏教絵画—童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝（新コディコロ ジー研究会） 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修/宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,600	
増補改訂 江戸の異性装者たち—セクシュアルマイノリティの理解の ために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,800	
古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406-5	4,180	3,300	
本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	
東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田欽 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕（オンデマンド版）	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・落 合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・ 柳沢昌紀・和田恭幸 編	2023/10	80452-9	27,500	22,000	
重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
日本人の読書—古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,600	
機巧の文化史 異聞—海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	4,000	
天地の間に己—人生きてありと思ふべし—熊沢蕃山「コスモポリテ ス」の地平	大橋健二 著	2023/08	31016-7	4,950	4,000	
古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,300	
大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015-0	11,000	8,800	
野村太郎の狂言入門	野村太郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500	
近世戯作の〈近代〉（オンデマンド版） —継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,900	
地方史誌から世界史へ—比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,000	
霊峰の文化史—世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800	
江戸時代の貸本屋 —庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
鞆川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
モノと権威の東アジア交流史—鑑真から清盛まで	シャルロット・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	
深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 —近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・中前 正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子 編	2023/03	31013-6	22,000	17,600	
黄泉の国との契約書—東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300	
二—世紀の川劇—文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	6,000	
グレーゾーンと帝国—歴史修正主義を乗り越える生の営み	高綱博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027-2	5,720	4,600	
文と書—中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,000	
古代日本の儀礼と音楽・芸能—場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800	
日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,600	

	鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	館隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
	中世醍醐寺と真言密教 (オンデマンド版)	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,600	
■ 古典文学・文学史 ■							
近刊	新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,900	
近刊	ラテンアメリカ文学の出版文化史—作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040-4	6,050	4,800	
	中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16,500	13,200	
	球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8,800	7,000	
	杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2,200	1,800	
	水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3,850	3,100	
	川端康成の曖昧な声—日本語の小説における文体と身体との交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	5,300	
	本 かたちと文化—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500	
	歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037-4	8,800	7,000	
	訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
	今昔物語集の怪異を読む—巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034-3	5,280	4,200	
	中国古典文学に描かれた厠・井戸・簀 (オンデマンド版) —民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	7,900	
	紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,800	
	比較文学で読む十一の出会い—交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	2,500	
	紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,600	
	日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	13,200	
	中国古典をどう読むか—規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	3,300	
	深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,100	
	平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	13,200	
	杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,600	
	俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	13,200	
	学習院本「藤袴」(榊原本僚帖)の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200	
	近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022-0	11,000	8,800	
	伝承と現代—民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004-2	8,800	7,000	
	源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	5,700	
	王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,600	
	谷崎潤一郎の世界史—『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020-6	5,280	4,200	
	宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,700	
	フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,800	
■ 日本語学・言語学 ■							
近刊	日本人は漢文をどう読んだか—直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38005-4	3,520	2,800	
	論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16,500	13,200	
	楷書の秘密—「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300	
	方言地理学の視界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003-0	8,800	7,000	
■ (アジア遊学) ■							
	293 彷徨する宗教性と国民諸文化—近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,600	
	292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538-3	3,850	3,100	
	291 五代十国—乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,800	
	290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,600	
	289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800	
	288 東アジアの「孝」の文化史—前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雋雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,800	
	287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
	286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波瀾剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
	285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
	284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
	283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
	282 列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
	281 神道の近代—アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
	280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
	279 上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	
■ 図書館学・アーカイブ ■							
	ひらかれる公共資料—「デジタル公共文書」という問題提起 (デジタルアーカイブ・ベーシック)	福島幸宏 責任編集	2023/11	30303-9	3,520	2,800	
	博物館情報学入門【アート・ドキュメンテーション叢書2】 (オンデマンド版)	E Orna & Ch. Pettitt 著/安澤秀一 監修/水嶋英治 編訳	2023/09	80172-6	3,850	3,100	
	共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ	鈴木親彦 責任編集	2023/07	30302-2	3,520	2,800	
	デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009-0	2,310	1,800	

その他のおすすめ書籍						
宋版一切経（福州版）調査提要	福州版一切経調査研究会 編	2022/03	31010-5	7,150	5,700	
宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	31008-2	16,500	13,200	
ことば・ほとけ・図像の交響	近本謙介 編	2022/03	31009-9	13,200	10,600	
新羅政治社会史研究	武田幸男 著	2022/12	32024-1	13,200	10,600	
コレクションとアーカイヴ	板倉聖哲・塚本麿充 編	2022/01	37000-0	10,450	8,400	
中国道教美術史 漢魏晋南北朝篇	李松 著／土屋昌明・齋藤龍一 監訳／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 訳	2022/02	37001-7	38,500	30,800	
入門 中国学の方法	二松學舎大学文学部中国文学科 編	2022/04	30005-2	1,760	1,400	
渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/02	22289-7	15,400	12,300	
書物・印刷・本屋	藤本幸夫 編	2021/06	30002-1	17,600	14,100	
中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/12	29612-6	6,600	5,300	
玄奘三蔵	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/12	31005-1	13,200	10,600	
史学科の比較史	小澤実・佐藤雄基 編	2022/05	32017-3	7,700	6,200	
中国の都市の歴史的記憶	和田博文・王志松・高潔 編	2022/09	32021-0	7,700	6,200	
鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	館隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
古代日本の儀礼と音楽・芸能	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,700	
明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2015/02	21024-5	8,800	7,000	
アジア学の宝庫、東洋文庫 東洋学の史料と研究	東洋文庫 編	2015/03	20030-7	3,080	2,500	
明治・大正の日本論・中国論 比較文化学的研究	藤田昌志 著	2016/10	23046-5	3,850	3,100	
「倭寇図巻」「抗倭図巻」をよむ	須田牧子 編	2016/04	22139-5	7,700	6,200	
日本古代交流史入門	鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市 編	2017/06	22161-6	4,180	3,300	
G・E・モリソンと近代東アジア 東洋学の形成と東洋文庫の蔵書	公益財団法人 東洋文庫 監修／岡本隆司 編	2017/09	22189-0	3,080	2,500	
古代日本と東部ユーラシアの国際関係	廣瀬憲雄 著	2018/10	22223-1	8,800	7,000	
近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書	甚野尚志・河野貴美子・陣野英則 編	2019/02	20068-0	8,800	7,000	
古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編／国立歴史民俗博物館 監修	2020/02	22272-9	8,580	6,900	
日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/03	20073-4	7,700	6,200	
日本画の所在 東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/04	27055-3	7,150	5,700	
古代の日本と東アジア 人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/07	22279-8	11,000	8,800	
東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田欽 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,200	
和漢朗詠集とその享受 増訂新版	三木雅博 著	2022/10	39012-1	16,500	13,200	
杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,600	
書物学 第21巻 活字	編集部 編	2022/12	30721-1	1,980	1,600	
古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,300	
書物の時代の宗教 日本近世における神と仏の変遷 アジア遊学287	岸本覚・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
近代アジアの文学と翻訳 西洋受容・植民地・日本 アジア遊学286	波瀾剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
神道の近代 アジア遊学281	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
都市と宗教の東アジア史 アジア遊学280	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
呪術と学術の東アジア アジア遊学278	陰陽道史研究会の会 編	2022/12	32524-6	3,300	2,600	
宋代とは何か アジア遊学277	平田茂樹・山口智哉・小林隆道・梅村尚樹 編	2022/11	32523-9	3,520	2,800	
呉越国 10世紀東アジアに華開いた文化国家 アジア遊学 274	瀧朝子 編	2022/10	32521-5	3,520	2,800	
「唐物」とは何か アジア遊学 275	河添房江・皆川雅樹 編	2022/10	32520-8	3,080	2,500	
日本の中世貨幣と東アジア アジア遊学 273	中島圭一 編	2022/09	32519-2	3,520	2,800	
対馬の渡来版経 アジア遊学 272	横内裕人 編	2022/08	32518-5	3,520	2,800	
儒教思想と絵画 アジア遊学 271	水野裕史 編	2022/06	32517-8	3,520	2,800	
近代中国美術の境界 アジア遊学 269	瀧本弘之・戦暁梅 編	2022/05	32515-4	3,850	3,100	
都市からひもとく西アジア アジア遊学 264	守川知子 編	2021/12	32510-9	3,080	2,500	
古典は遺産か？ 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造 アジア遊学 261	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	32507-9	3,080	2,500	
書物のなかの近世国家 アジア遊学 259	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/08	32505-5	3,300	2,600	
史料が語る東インド航路 アジア遊学 258	水井万里子・大澤広晃・杉浦末樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/07	32504-8	3,080	2,500	
元朝の歴史 アジア遊学 256	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/06	32502-4	3,520	2,800	
ユーラシアの大草原を掘る 草原考古学への道標 アジア遊学238	草原考古研究会 編	2019/09	22704-5	3,520	2,800	
金・女真の歴史とユーラシア東方 アジア遊学233	古松崇志・臼杵勲・藤原崇人・武田和哉 編	2019/05	22699-4	3,520	2,800	
ソグド人と東ユーラシアの文化交渉 アジア遊学175	森部豊 編	2014/08	22641-3	3,080	2,500	
契丹〔遼〕と10～12世紀の東部ユーラシア アジア遊学160	荒川慎太郎・澤本光弘・高井康典行・渡辺健哉 編	2013/01	22626-0	3,080	2,500	
王朝から「国民国家」へ 清朝崩壊100年 アジア遊学148	楊海英 編	2011/12	22614-7	2,200	1,800	

器と信仰

東アジアの舍利莊嚴をめぐる
美術史・考古学からのアプローチ

釈迦の遺骨として、アジア各地で篤い信仰を集める「舍利」。その容れ物である舍利容器は、特定の用途を持つ器形や、別の文脈で意味を成した図像が複合的に組み合わされ、舍利を莊嚴する器として仕立て上げられた。それゆえ、「器のかたち」——どこで、どのような器の形状・素材・図様が採用されてきたのかという問題は、「舍利の意味」——舍利が各地域の社会においてどのような存在として受容されたのかということと相関関係を有している。十数年にわたり行われた中国・日本・韓国・ベトナムの現地調査を礎とした、舍利及びその莊嚴に関する最新の知見を三部十四本の論考により提示。また、資料編では、現地調査にて得られた作例の基礎データ、また、舍利莊嚴における大きな画期である仁寿舍利塔の網羅的調査記録を提示、貴重な画像資料も収載した。美術史学界・考古学界のみならず、日本及び東洋の文化史に関わる領域に広く寄与する画期的成果。

カラー口絵
はじめに……加島勝

◎研究編

第1部

●中国・シルクロードにおける舍利容器の形式変遷について……加島勝●中国における棺形舍利容器とそのモデル……岡林孝作

第2部

●北魏～隋唐時代の舍利埋納方式——地宮・天宮の変遷と舍利容器の組合せを中心に……冉万里

第3部

●隋代における舍利埋納制度について……冉万里●仁寿舍利塔の思想と舍利容器……長岡龍作●神徳寺石函の図様表現と特色……泉武夫

◎資料編

●仁寿元年の第一次仁寿舍利塔に関する資料集成……大島幸代

◆資料集

●岐州鳳泉寺／雍州仙遊寺／嵩州嵩岳寺／秦州岱岳寺／華州思賢寺／衡州衡岳寺／定州恒岳寺／鄭州法講寺／牟州巨神山寺
●吳州会稽山寺／同州大興國寺蒲州栖巖寺蘇州虎丘山寺／涇州大興國寺／襄州大興國寺／襄州大興國寺／襄州大興國寺／襄州大興國寺
●揚州西寺／鄭州定覺寺／青州勝福寺／亳州開寂寺／汝州興世寺／瓜州崇教寺／番州靈鷲山寺／桂州綠化寺／交州禪聚寺／蔣州栖霞寺
●崇福寺塔心礎納置品の材質調査について……加島勝

◆拓本・碑銘

●「拓本」神徳寺石函線刻／山東青州勝福寺「碑銘」重修広福寺記／瑞応寺再葬仏舍利碑／結九品往生社碑
●海外現地調査日誌 2001～2019……岡林孝作・加島勝

あとがき……加島勝

加島勝

（編）

（かしま・まさる）一九五六年生まれ。大正大学名誉教授・特選教授、東京国立博物館名誉館員。博士（文学）。専門は仏教工芸史。著書に『柄香炉と水瓶』（日本の美術）五四〇号、ぎょうせい、二〇一一年、『日中古代仏教工芸史研究』（雄山閣、二〇一六年）、『平泉の文化史3 中尊寺の仏教美術彫刻・絵画・工芸』（共著、吉川弘文館、二〇二一年）などがある。

書名	冊数
器と信仰 加島勝（編） 東アジアの舍利莊嚴をめぐる 美術史・考古学からのアプローチ	冊

定価 16,500円・本体15,000円
B5判上製カバー装・460頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-32041-8 C3020

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈編者〉
外村中
稲本泰生

「見える」ものや「見えない」ものをあらわす

東アジアの 思想・ 文物・ 藝術

本書の構成

- 第一部 祭祀・墓葬と「見える」もの「見えない」もの
第二部 尊像の誕生
第三部 仏菩薩の姿と「時間」「過程」の表象
第四部 仏身と世界観——盧舎那仏の形と意味
第五部 音を「見せる」／姿を「留める」
第六部 仏菩薩の顕現する場
第七部 「見えない」ものを「とらえる」——付会と図解
第八部 諸教交渉と「見える」もの「見えない」もの
第九部 「見える」「見えない」現象の主体／連鎖するイメージ

「見える／見えない」を論じること、それらを描き出すこと——
宗教や思想、藝術などの人間の営みは、
このことが大変重要かつ普遍的なテーマであることを示している。
東アジアの文物や藝術を解釈する上での共通の基盤の形成をめざすために、
「見えるもの／見えないもの」にまつわる理論や事象について、
従来分野の枠組をこえて国際的にかつ学際的に探求。
宗教・思想をはじめ、考古遺物から彫刻絵画、
建築庭園、芸能音楽などにまで及ぶ様々な論点を、
最先端の研究者二十四名の視角により提示する画期的論集。

執筆者一覧

古勝隆一 森下章司 魏藝 田中健一 船山徹 大平理紗 倉本尚徳 増記隆介 横手裕 西谷功 清水健
向井佑介 内記理 折山桂子 中西俊英 高橋早紀子 黄盼 瀧朝子 塚本明日香 福谷彬 重田みち 吳孟晋

定価 15,400円・本体14,000円
B5判上製カバー装・744頁(+口絵2頁)
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-37012-3 C3071

書名	冊数
「見える」ものや「見えない」ものをあらわす 東アジアの思想・文物・藝術 外村中・稲本泰生(編)	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

序にかえて……外村中

第一部 祭祀・墓葬と「見える」もの「見えない」もの

后稷は天に配せられたのか——『詩』大雅「生民」から『孝経』へ……古勝隆一
漢魏晋墓の神坐と墓主画像——墓のなかの「見えるもの」と「見えないもの」……向井佑介

第二部 尊像の誕生

西王母像の系譜と像の崇拜……森下章司
仏像の出現について……内記理

第三部 仏菩薩の姿と「時間」「過程」の表象

南北朝期中国仏教における十地思想の再検討——四果と十地の関係を手がかりに……魏藝
莫高窟隋代の弥勒経变相図付近に描かれた二菩薩像……折山桂子
日本仏教造像史と久遠の釈迦……田中健一

第四部 仏身と世界観——盧舍那仏の形と意味

『大方広仏華嚴経』における「ヴァイローチャナ」とその教理的解釈……中西俊英
盧舍那仏の可視性と立像……船山徹
「法界仏像」における諸形象の表象意識——キジル石窟第十七窟両像と敦煌莫高窟第四二八窟像を中心に……高橋早紀子

第五部 音を「見せる」／姿を「留める」

雲岡石窟にあらわされた楽器について……大平理紗
供養者画像からみる雲岡石窟大型窟の造営……黄盼

第六部 仏菩薩の顕現する場

晩年の道宣による天竺中土説の克服——見えないものによる三宝の住持と見えるものとの感応……倉本尚徳
鏡像／線刻鏡の考察——画像を見いだす……瀧朝子
宋代仏画における清浄華院「阿弥陀三尊像」の史的位位置……増記隆介

第七部 「見えない」ものを「とらえる」——付会と図解

太極殿および大極殿をめぐる文学作品四篇訳注……古勝隆一
見えない天意を見せるもの——正史「五行志」の役割……塚本明日香
医家と道家と体内観……横手裕
道学における周惇頤顯彰と『太極図説』への注目……福谷彬

第八部 諸教交渉と「見える」もの「見えない」もの

道家系と儒家系と伊勢神道の「一なるもの」——「一なるものは「道」か「気」か……外村中
北宋大中祥符年間における舍利莊嚴の位相——長干寺阿育王塔の埋納を中心に……稲本泰生
涅槃会の変遷と涅槃図——東アジア仏教社会における「忌日」を視点に……西谷功

第九部 「見える」「見えない」現象の主体／連鎖するイメージ

幽霊能におけるまぼろし——〈幻〉と見える——見えない——の歴史と変遷……重田みち
神宝より見える、見えない日本の神々の姿……清水健
明清絵画にみる文人器玩のあり方……呉孟晋

あとがき……稲本泰生
執筆者紹介



和紙を科学する

製紙技術・ 繊維分析・ 文化財修復

(おおかわ・あきのり)一九四二年生まれ。和紙研究家。専門は製紙技術。論文に「製紙に関する古代技術の研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(増田勝彦と共著「保存科学」20、一九八一年)、「同」22、一九八三年、「同」24、一九八五年)。「古代の造紙技術について」(延世大学校国文学研究院「東方學志」106、一九九九年)、「浮世絵の紙」(日本分析科学会「ふんせき」3、二〇〇三年)などがある。

大川昭典 著

カラー口絵

緒言◎湯山賢一(東大寺ミュージアム館長)

第一部 日本古代の製紙技術

古代の造紙技術について
製紙に関する古代技術の研究◎大川昭典・増田勝彦
製紙に関する古代技術の研究(Ⅱ)——打紙に関する研究◎増田勝彦・大川昭典
製紙に関する古代技術の研究(Ⅲ)——苧麻布・楮の白搗による叩解◎大川昭典・増田勝彦
「特別寄稿」正倉院宝物の紙調査成果における大川昭典氏の功績◎増田勝彦

第二部 和紙の製法と材料

料紙の構造と組成について
和紙つくりについて
楮・雁皮配合紙の手漉き試験
材料からみた和紙の歴史的变化
「コラム」土佐七色紙の復元◎有吉正明

第三部 料紙調査の技法と分析

文書紙の繊維組成及び填料の観察
繊維形態及びC染色液による呈色
浮世絵の紙——時を隔てた二作品の用紙を分析して
箔打紙比較試験
「対談」料紙研究の視点◎大川昭典×湯山賢一

あとがき・初出一覧

図書館・文書館・文化財関係者、必備の書！

古文書・古典籍・絵画など、日本には「紙」の文化財が数多く残されている。これらの料紙には、どのような材料が使用され、どのような漉き方、加工が施されたのか。また、色や大きさを選定する背景には、どのような価値観があったのか——紙はその当時の人びとの心性や文化体系をいまに伝える貴重な史料である。それらの文化財を守り、伝えていくためには、
基盤となる紙の調査・分析を欠くことができない。
四十数年に及び、先駆的に紙の文化財の調査・科学的分析に関わり、料紙の材料や構造・製法の研究において、数多くの実績を残し、修理用紙の作成、料紙の復元などにも尽力してきた著者の知見を初めて集成。現在、大きな展開を見せている「紙」の研究の基盤と歩みを提示する画期的な一冊。



美濃紙の電子顕微鏡写真

定価4,620円・本体4,200円
B5判並製カバー装・256頁(口絵16頁)
2024年6月刊行
ISBN978-4-585-35002-6 C1058

書名	冊数
和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復 大川昭典〈著〉	冊
ご送付先ご住所(通信欄)	

中国学の 近代的展開と 日中交渉

陶徳民・吾妻重二・永田知之〔編〕

二十世紀前半、日本では近代漢学、東洋学や支那学、現代中国学など、中国をめぐる学術研究が盛行した。一方、同時代の中国では、従来の漢学・宋学・清代の考証学に加えて、自国の文化遺産を再評価しようとする国学が勃興し、周辺地域も視野にいられた東洋学が芽生えた。

しかし、当時の日中両国の中国研究は決して没交渉だったわけではなく、むしろ緊密な協働関係のもとに展開していった。

例えば、京都大学の内藤湖南による『章実齋先生年譜』に刺激を受けた胡適が、同名の年譜を編んで内藤に贈ったことや、増田渉が上海で魯迅から『中国小説史略』の個人授業を受けた縁で、魯迅の丁寧な添削を経た同書の名訳を上梓できたことが挙げられる。

本書では伝統的な経学・史学・文学と、敦煌学や甲骨学など新しい分野をめぐる日中間の学術交流と人的交流の重要な事例を網羅的に考察するとともに、約二〇〇点の関連写真と史料で全体像を提示する。

東アジアにおける中国学の近代的展開の諸相とその歴史の意味を考えるために必携の一冊。

〔編者紹介〕

陶 徳民（とうとくみん）●関西大学名誉教授・東アジア文化交渉学会初代会長。主な著書に『もう一つの内藤湖南像——関西大学内藤文庫探索二十年』（関西大学出版部、二〇二二年）など。

吾妻重二（あづま・じゅうじ）●関西大学文学部教授・日本中国学会副理事長。主な編者に『東西学術研究と文化交渉——石濱純太郎没後50年記念国際シンポジウム論文集』（関西大学出版部、二〇一九年）など。

永田知之（ながた・ともゆき）●京都大学人文科学研究所准教授。主な著書に『理論と批評——古典中国の文学思潮』（臨川書店、二〇一九年）など。

〔目次〕

序説：陶徳民・吾妻重二

I 近代における章学誠研究熱の形成とそのインパクト

十九世紀中国の知識人が見た章学誠とその言説

——史論家・思想家への道：永田知之

「欧西と神理相似たる」東洋の学問方法論の発見を求めて

——内藤湖南における章氏顕彰と

富永顕彰の並行性について：陶徳民

戴震と章学誠と胡適——乾嘉への接続と学術史の文脈：竹元規人

「章学誠の転換」と現代中国の史学の実践——胡適を中心に（節訳）

……潘光哲（邱吉・竹元規人編訳）

余嘉錫の章学誠理解——継承と批判：古勝隆一

内藤湖南・梁啓超の設身处地と章学誠の文徳について：高木智見

【コラム】『章氏遺書』と章実齋年譜について：錢婉約

【コラム】劉咸忻と何炳松の章学誠研究について：陶徳民

【コラム】清末・民国初期における史学と目錄学：竹元規人

【コラム】『文史通義』の訳出を終えて：古勝隆一

II 経史研究の新しい展開と日中人物往来

「東洋史」の二人の創始者——那珂通世と桑原隲藏：小嶋茂穂

羅振玉・王国維往復書簡から見る早期甲骨学の形成

——林泰輔の貢獻に触れて：羅振（邱吉訳・永田知之校閲）

漢学者松崎鶴雄から見た湖南の経学大師

——王蘭運・王先謙・葉德輝：井澤耕一

皮錫瑞『経学歴史』をめぐる日中の人的交流とその思惑・評価：橋本昭典

近代日本に於ける「春秋公羊伝」論：劉岳兵（殷晨曦訳・古勝隆一校閲）

諸橋轍次と中国知識人たちの交流について

——基本史料研究の現状および展望：石曉軍

武内義雄と吉田鋭雄——重建懷徳堂講師の留学と西村天囚：竹田健二

【コラム】水野梅暁とその関係資料：劉曉軍

【コラム】『古史辨』の登場と展開：竹元規人

【コラム】宮崎市定における「宋代ルネサンス」論の形成とその歴史背景：呂超

【コラム】北京の奇人・中江丑吉——その生い立ちと中国研究：二ノ宮聡

III 民間文学と現代中国への眼差し

狩野直喜の中国小説研究——塩谷温にもふれて：胡珍子

青木正見の中国遊学と中国研究：周岡

増田渉と辛島驍——『中国小説史略』の翻訳をめぐる：井上泰山

竹内好と中国文学研究会のあゆみ：山田智

【コラム】敦煌学が開いた漢字文化研究の新世界：永田知之

【コラム】雑誌『支那学』の創刊と中国の新文化運動：辜承堯

【コラム】吉川幸次郎と『東方文化研究所漢籍分類目録』 附書人名目通検

……永田知之

あとがき：永田知之／年号対照表

アジア遊学 292

定価二、八五〇円（税込）
本体三、五〇〇円

A5判並製カバー装・三三六頁
二〇二三年十二月刊行
ISBN978-4-585-32538-3 C1322

書名	部数
中国学の近代的展開と日中交渉 【アジア遊学292】 陶徳民・吾妻重二・永田知之〔編〕	部
定価3,850円(税込)・本体3,500円 A5判並製カバー装・336頁 2023年12月刊行 ISBN978-4-585-32538-3 C1322	部
ご送付先（氏名・住所・電話番号）	

湖北省留日学生と 明治日本

王鼎 著

(おうてい、WANG Ding)一九九〇年生まれ。中国政府の国費留学生として新潟大学大学院現代社会文化研究科に留学。博士(文学)。専攻は日中文化交流史。現在は北京師範大学外国語学院専任講師。主な著作に『日華学堂とその時代——中国人留学生研究の新しい地平』(共著、武威野大学出版社、二〇二二年)、『明治から昭和の中国人日本留学の諸相』(共著、東方書店、二〇二三年)、『佛教・歴史・留学——交流視角下的東亜和日本』(編著、博陽文化出版社、二〇二一年)などがある。

定価 7,700円・本体7,000円
A5判上製カバー装・376頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-32043-2 C3020

知られざる、日中関係史

明治期に日本へ派遣された中国人留学生たちは、どのような目的で来日し、どのような行動をとっていたのか。彼らの活動や日本で学んだ知識・思想は、日中両国間の政治・外交・文化交流にどのような影響を与えたのか。これまで湖北省から大量の学生を日本へ送り出した張之洞の功績については注目されてきたが、湖北省留日学生の人生とその軌跡については、いまだ歴史の中に埋もれたままである。本書では、彼らが日本留学に至った経緯から留学中の生活、同郷会の雑誌・教科書の出版や翻訳活動、留学制度と留学生受け入れの実態、さらには軍事系留学生と辛亥革命の関係まで、徹底的に究明。豊富な史料とフィールドワークに基づき、多角的視座から分析と考察を加え、従来の日中留学生史研究に新たな光を当てた待望の新機軸。武漢大学・馮天瑜教授推薦！

推薦の辞……馮天瑜
序章

第I部 清末における中国人日本留学の軌跡

第一章 清末における中国人日本留学の歴史

第II部 湖北省留日学生の諸活動

第二章 湖北省留日学生の初期活動について

第三章 留日学生と湖北同郷会

第III部 湖北省留日学生の留学経験とその影響

第四章 湖北省留日学生の活躍と帰国後の進路

第五章 教育・革命・鉄道——黄州府麻城三兄弟の事例研究

第六章 寺尾亨の東斌学堂と留日学生——『向巖家書』を一つの手がかりとして

終章

資料編

解題

資料一 清末湖北留日学生名簿(一八九六—一九二一)

資料二 『湖北学生界』・『漢声』・『旧学』目録

資料三 『湖北学生界』開辦章程

資料四 湖北同郷会章程

資料五 湖北省留日学生の著訳書一覧

資料六 選派陸軍学生分班遊学章程

資料七 陸軍士官学校(第一期、第八期)の湖北留学生および活躍者たち

資料八 駐日清国公使館および在清国日本公使館の外交官一覧表

資料九 清末期の湖北省全域図

資料十 武昌省城の街道図(一九〇九)

あとがき・索引

書名	冊数
湖北省留日学生と明治日本 王鼎(著)	定価 7,700円・本体7,000円 A5判上製カバー装・376頁 2024年3月刊行 ISBN978-4-585-32043-2 C3020
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

高東煥 著
Ko Donghwan

一九五八年生まれ。ソウル大学国史学科を卒業。ソウル学研究所の首席研究員を経て、韓国科学技術院（KIST）人文社会科学部教授として在職中。朝鮮後期〜韓末時期社会経済史に関する論文・著書多数。日本での訳書に『朝鮮後期ソウル商業発達史研究』（東京堂出版、二〇一九年）がある。

〈訳者〉
野崎充彦

大阪市立大学名誉教授。専攻は朝鮮古典文学・伝統文化論。著書に『朝鮮の物語』（大修館書店、一九九八年）『備前叢話 15世紀朝鮮奇譚の世界』（集英社、新書、二〇一〇年）『神話世界と古代帝国』（集英社、二〇一三年）など多数。

金子祐樹

大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。現在、東国大学校（韓国）MSOキャンパス講義招聘教授。専攻は朝鮮古典文学。

朝鮮時代 ソウル 都市史

ソウルという都市空間は
如何に形成されたのか――

十五世紀より今日まで韓国の歴史の中心に位置する都市、ソウル。移ろいゆく時代のなかで人びとの生活や文化、都市そのもののあり方は如何に変遷していったのか――

遷都の背景にあった風水と儒教の役割と都市設計、

政治的中心から商業都市への過程で見られる御用商人中心から私商人らの伸長による市場の増大や、流浪民の集中による人口増加と都市問題の発生などの諸現象、

また、徭役の金納化や請負業者の発展がもたらす行政施策の変化、

都市市民の出現による朝鮮後期の遊興文化の爛熟など、ソウルという都市をめぐる諸相を考察。

さらに様々な古地図にあらわれた都市空間に対する認識の時代的変容をも検討し、

ソウルという時空間の複雑な展開を明らかにしたうえで、

朝鮮時代史研究の新しいパラダイムと研究の方法論を提示する。

膨大な資料の分析と多角的な視点により、
朝鮮後期の社会経済史研究を領導してきた著者による画期的研究成果を初邦訳。

目次

日本語版序文

はじめに

1 序論

2 朝鮮初期漢陽の形成と都市構造

3 朝鮮後期ソウルの人口趨勢

4 朝鮮後期ソウルの都市構造の変化と都市問題の発生

5 朝鮮後期ソウルの生業と都市文化

6 朝鮮後期ソウル住民の役割の変化

―― 蔵氷役の廃止と蔵氷業への転換

7 漢城府行政編制の変化

8 朝鮮後期におけるソウルの空間構成と空間認識

9 朝鮮時代におけるソウルの市場と商業

10 一七、一八世紀のロンドンとソウルの都市構造比較

あとがき―― 解説に代えて：野崎充彦

索引



定価 9,900円・本体9,000円
A5判上製カバー装・456頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-32039-5 C3022

書名	冊数
朝鮮時代ソウル都市史 高東煥〈著〉 野崎充彦・金子祐樹〈訳〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 9,900円・本体9,000円
A5判上製カバー装・456頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-32039-5 C3022

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

泰山諸神の信仰の展開

東岳大帝から碧霞元君へ

古来、道教の聖地として崇められ、
中国の文化・伝統に
多大な影響を与えてきた泰山と、その信仰――。

東岳大帝・碧霞元君などの神々の起源・由来・伝承を整理し、それらの民俗信仰の様相と変遷を考察。
また先行調査と実地調査から、泰山諸神の信仰対象の移り変わりや民衆の認識を検討し、明代以降
に隆盛する碧霞元君信仰について泰山・北京・大石橋市における廟会の事例を踏まえ、往時と現在の
信仰の比較、廟会復興の過程を紹介。参考資料として、現代における廟会の図版を多数掲載。

泰山諸神の信仰状況を歴史的に検討し、広い視点から泰山信仰ひいては
中国の民間信仰の一端を明らかにする画期的成果！

定価 8,800円・本体8,000円
A5判上製カバー装・304頁
2024年1月刊行
ISBN978-4-585-31018-1 C3014

ISBN978-4-585-31018-1 C3014

第一章

泰山信仰の変遷

――東岳大帝から碧霞元君へ――

- 一、泰山諸神
- (一)泰山と東岳大帝
- (二)泰山と蒿里山
- (三)泰山と岱廟
- 二、炳靈公信仰
- (一)泰山三郎と炳靈公
- (二)通俗文学にみられる炳靈公
- (三)『封神演義』にみられる炳靈公
- 三、碧霞元君信仰
- (一)碧霞元君の起源と伝承
- (二)『醒世姻縁伝』にみられる碧霞元君

第二章

北京の碧霞元君信仰

――北京と碧霞元君――

- (一)北京の碧霞元君廟会調査
- (二)妙峰山と願頭剛の調査
- (三)香道
- (四)文会と武会
- (五)鬻山
- (六)天台山
- (七)五頂
- (八)現在の妙峰山娘娘廟会
- 二、北京の廟会の現状
- (一)廟会の復興と発展
- (二)廟会の形式
- (三)廟会の現状

第三章

満州の碧霞元君信仰

――満州と碧霞元君――

- (一)中国東北地域の碧霞元君信仰
- (二)迷鎮山娘娘廟会
- (三)迷鎮山と日本人調査
- (四)『封神演義』における碧霞元君
- (五)迷鎮山娘娘廟会の現状
- (六)鳳凰山と北山の娘娘廟会

結語

- 参考資料
- 1 妙峰山
 - 2 Y鬻山
 - 3 五頂
 - 4 岱廟
 - 5 泰山
 - 6 北京春節廟会
 - 7 迷鎮山
- 後記

もくじ

二ノ宮聡 著

(このみや・さとし)一九八二年生まれ。北陸大学国際コミュニケーション学部講師。専門は中国の民間信仰。主な業績に、翻訳『全訳 封神演義』共訳 勉誠社、二〇一七～一八全四冊、論文に『宝巻からみる明代後期から清代初期の碧霞元君信仰』(東方宗教)二三八号、二〇二二年、「北京の碧霞元君廟会――五頂と妙峰山とY鬻山(関西大学中国文学会、二〇二二年)」、「北京の廟会の復興と現状」――二〇二一・二〇二二年春節廟会を中心に(関西大学中国文学会、二〇一四年)などがある。

書名	冊数
泰山諸神の信仰の展開 東岳大帝から碧霞元君へ 二ノ宮聡 著	冊
定価 8,800円・本体8,000円 A5判上製カバー装・304頁 2024年1月刊行 ISBN978-4-585-31018-1 C3014	
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

日本人の読書

古代・中世の学問を探る

佐藤道生 [著]

人びとは何を読み、どのように学んできたのか——
古代・中世の日本において、書物を読み、解釈し、
伝えていくことは、限られた人びとにのみ許される
特権的な営みであった。

特に中国大陸ないしは朝鮮半島経由で伝えられた
漢籍(漢語で書かれた書物)は、国家を支える政治や法、

さらには思想や文化体系を伝える最先端のものとして重要視された。
中国の文化全般を学ぶことを目的とした

これらの学問——漢学——は、国家の制度のなかにも位置付けられ、
それを担う家では、書写・刊行された諸種の漢籍を入手し、

独自の学問を形成していった。

書物に残された注釈の書き入れ、来歴を伝える識語、
古記録や説話に残された漢学者の逸話など、

漢籍の読書の高まりをいまに伝える諸資料から
古代・中世における日本人の読書の歴史を明らかにする。

本書ではじめてフルカラー公開する資料

『清涼山伝』◎『文選集注』巻七断簡◎『文選集注』巻百十一断簡

金澤文庫本『文選集注』巻六十一残簡◎『論語』清原業賢書写・加點本

慶應義塾図書館蔵『論語』天文版清原枝賢加點本

『佐保類切』『施氏七書講義』断簡◎『佐保類切』『施氏七書講義』残簡

『道德経切』『老子道德経』断簡

著者プロフィール

佐藤道生(さとう みちお)
一九五五年生まれ。慶應義塾大学名誉教授。専門は古代・中世日本漢学。主な著書に『平安後期
日本漢文学の研究』(笠間書院、二〇〇三年)、『三河風来寺旧蔵曆応二年書写和漢朗詠集影印
と研究』(勉誠出版、二〇一四年)、『句題詩論考——王朝漢詩とは何ぞや』(勉誠出版、二〇一六年)、
『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討』(『変革期の社会と九条兼実——『玉葉』をひらく』
勉誠出版、二〇一八年)などがある。

目次

カラー口絵

◎本 篇

第一章 古代・中世日本人の読書

第二章 日本に現存する漢籍古写本——唐鈔本はなぜ読み継がれたのか

第三章 古代・中世漢文訓詁史

第四章 平安貴族の読書

第五章 藤原道長の漢籍蒐集

第六章 藤原兼実の読書生活——『素書』と『和漢朗詠集』

第七章 養和元年の意見封事——藤原兼実「可依変異被行攘災事」を読む

第八章 『論語疏』中国六世紀写本の出現

第九章 平安時代に於ける『文選集注』の受容

第十章 金澤文庫本『春秋経伝集解』、奥書の再検討

第十一章 室町後期に於ける『論語』伝授の様相

——天文版『論語』の果たした役割

第十二章 清原家の学問と漢籍

——『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十三章 吉田家旧蔵の兵書

——慶應義塾図書館蔵『七書直解』等の紹介を兼ねて

第十四章 『佐保切』追跡

——大燈国師を伝称筆者とする書蹟に関する考察

第十五章 伝授と筆耕——呉三郎入道の事績

第十六章 『古文孝経』永仁五年写本の問題点

第十七章 猿投神社の漢籍古写本

——『史記』『春秋経伝集解』の書写者を探る

◎附 篇

第十八章 『朝野群載』卷十三の問題点

第十九章 日本漢学史上の句題詩

第二十章 『本朝麗藻』所収の積算詩——句題詩の変型として

第二十一章 藤原有国伝の再検討

第二十二章 大江匡房と藤原基俊

第二十三章 大江匡房の著作と『新撰朗詠集』

第二十四章 平安後期の文章得業生に関する覚書

第二十五章 『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討

第二十六章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

あとがき／初出一覧／図版一覧／索引

貴重資料の
図版収録点数
総50超!

定価 13,200 円(本体 12,000 円)
A5判・上製カバー装・
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

書 名	部 数
日本人の読書 古代・中世の学問を探る 佐藤道生 [著]	定価 13,200 円(本体 12,000 円) A5判・上製カバー装 504頁+カラー口絵16頁 ISBN978-4-585-39033-6 C3091 2023年9月刊行
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

国宝「三十帖冊子」

修理から見えてきたもの

最新の仏教学を学ぶために唐に渡った弘法大師空海が、当地の仏教經典・儀軌類を書写し、日本に隨身秘蔵してきた冊子本、国宝「三十帖冊子」。第六世守覚法親王の時代より京都・仁和寺にて尊ばれ、伝持されてきた同書は、空海の入唐中の学問のありかたを伝える密教将来の至宝として、また、空海や橘逸勢ほか、多くの唐の写経生がその書写に関わり、かつ冊子のかたちとして最も古い装訂とされる粘葉装（ちりょうそう）の日本最古の例として、文化財としても特筆すべき意義を有している。

国宝「三十帖冊子」は、どのように守られ、伝えられてきたのか。六か年の歳月をかけて行われた修理の全容と、それによって見えてきた新知見を多くのカラー図版とともに紹介。さらには、「三十帖冊子」の伝来と流転、奈良朝經典訓読や漢籍訓読の諸問題、空海の学問と書、高解像度デジタル顕微鏡による料紙分析と写本学とのコラボレーション、文化財修理のこれまでとこれから等、多角的な観点から「三十帖冊子」を把握する決定版。

掲載図版点数三〇〇点超！

刊行にあたって 総本山仁和寺門跡真言宗御室派管長 瀬川大秀
序言——本書の概要 宇都宮啓吾

第一部 修理・書誌篇

国宝「三十帖冊子」修理報告——修理の概要と調査報告・株式会社松鶴堂
「三十帖冊子」の修理を振り返って・株式会社松鶴堂（書跡担当課 森川洋子）
「三十帖冊子」の料紙に残された痕跡の伝えるもの
——保存修理の視点から 鈴木裕
装訂や料紙から見た国宝「三十帖冊子」 赤尾栄慶
コラム 空海の書——唐からの贈り物 銅島稲子
「三十帖冊子」を飾る染織品 山川曉
料紙を観る——写本学と光学的調査からのアプローチ
石塚晴通・赤尾栄慶・江南和幸・岡田至弘
コラム 文化財情報のプラットフォーム
金剛寺蔵「梵漢普賢行願讚」をめぐる——宇都宮啓吾

第二部 典籍篇

「三十帖冊子」の借覧と返納をめぐる——武内孝善
「三十帖冊子」の仁和寺移動と仁和寺伝持の歴史 朝川美幸
空海将来経論の書写をめぐる——
——「三十帖冊子」に関連して 苦米地誠一
仁和寺蔵「三十帖冊子」の訓点から
——観た漢籍訓読の一問題 宇都宮啓吾
典籍保存修理の歩み——昭和から令和へ 鈴木裕

定価 13,200円(税込)

本体 12,000円(+税)

2023年11月刊行

A5判上製カバー装・336頁(カラー160頁)

ISBN978-4-585-31012-9 C3015



総本山仁和寺 監修 宇都宮啓吾 編

(うつのみや・けいご) 1966年生まれ。大阪大谷大学文学部教授。専門は日本語学、仏教典籍学。著書に『四天王寺聖教の世界』(四天王寺宝物館令和三年秋季特別展図録(監修・執筆、四天王寺勧学部、二〇二二年)などがある。

書名	冊数
国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの 総本山仁和寺＝監修 宇都宮啓吾＝編	冊
定価 13,200円(税込) 本体12,000円(+税) A5判上製カバー装・336頁(カラー160頁) 2023年11月刊行 ISBN978-4-585-31012-9 C3015	
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

古典籍の 文献学

鶴見大学図書館の蒐書を巡る

『伊勢物語』、『源氏物語』などの物語、歌集・歌学書、古筆切、仏書、漢籍、洋学資料…。鶴見大学図書館では、文献資料に基づく実証的研究を伝統とし、その時々々の教職員が書物に対する深い関心と集書への熱意によって、徐々に貴重な古典籍が蒐集されてきた。そのコレクションは全国でも屈指の収蔵点数を誇っており、まさに「宝庫」と呼ぶに相応しい。鶴見大学図書館が七十年の長きにわたり、博搜と収蔵に取り組み続け、守り伝えてきた宮為とその魅力をあますところなく紹介する。

鶴見大学図書館の貴重書——これまでとこれから ●伊倉史人

第一部……物語と歌書

- 伊勢物語 ●久保木秀夫
- 源氏物語——河内本または別本を含む写本 ●田口暢之
- 『平家物語』長門切——鶴見大学図書館断簡を中心に 付長門切一覽 ●平藤幸
- 改竄された仮名遣い——契沖筆、古今和歌集」とその模刻 ●加藤弓枝
- 新古今和歌集——鎌倉期写の残欠本 ●田口暢之
- 十三代集とその周辺——「写字白田蔵本と尊円筆、風雅和歌集」 ●石澤一志
- 御室撰歌合と千五百番歌合 ●田口暢之
- 鶴見大学図書館蔵伝後京極良経筆和漢朗詠集について ●山本まり子
- 古筆切・古筆手鑑 ●久保木秀夫
- 無訓の金沢文庫切 ●新沢典子
- 院政期歌学書の善本——『俊頼髓脳』を中心に ●伊倉史人
- 新収の古今注——伝轉法輪公教筆、古今和歌集注の紹介 ●河田翔子

第二部……仏書・漢籍・洋学・アーカイブ

- 鶴見大学図書館所蔵品をとおしてみる本邦における仏典の書写・請求・印刷 ●宮崎展昌
- 聖教を披き、「宝蔵」を思い描く ●小島裕子
- 禅籍ではじまる日本出版文化 ●万波寿子
- 仏教文化研究所——總持寺・瑠山禪師の探求と大遠忌関連事業 ●尾崎正善
- 鶴見大学所蔵の中国漢籍——三槐堂王乾字刊、烏臺正詒凌雲詩経 ●金文京
- 開国の足音——オールコック「初學者用日本文法綱要」 ●遠藤佳那子
- でんしかししょう！ ●大矢一志



定価 2,200円・本体2,000円
B5判並製・オールカラー・120頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-30725-9 C1000



<p>書名</p> <p>[書物学 25]</p> <p>古典籍の文献学</p> <p>鶴見大学図書館の蒐書を巡る</p> <p>編集部〈編〉</p>	<p>冊数</p> <p>冊</p>
<p>ご送付先ご住所（通信欄）</p>	

定価 2,200円・本体2,000円
B5判並製・オールカラー・120頁
2024年3月刊行
ISBN978-4-585-30725-9 C1000

本書は『図像学入門——疑問符で読む日本美術』
(2015年11月刊行)の増補改訂版です。



増補改訂版

図像学入門

疑問符で読む日本美術

観音にはひげがある？

なぜ絵巻は右から左へみるの？

写生画が写真ではない？

絵画や仏像などのさまざまな疑問・謎を

図像解釈学(イコノロジー)から探り、

日本美術の新しい楽しみ方を提案する。

大日如来、幽霊の絵、麗子像など

8つのトピックを追加し、増補改訂版として刊行。

もくじ？

- 第1章 釈迦の生涯——仏像の基本
 - 第2章 仏像の種類——4つのタイプ
 - 第3章 曼荼羅——密教世界の地図
 - 第4章 六道輪廻と浄土——人は死んだらどこへゆく？
 - 第5章 神々のすがた
 - 第6章 人のかたち——肖像と似会にせえ
 - 第7章 絵巻物——物語を絵にする
 - 第8章 山水画と花鳥画——神仏でも人でもないもの
 - 第9章 浮世絵
 - 第10章 西洋絵画と日本
- ついでのはなし

山本陽子 著



(やまもと・ようこ) 1955年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科(美術史)博士課程後期単位取得。博士(文学)。明星大学教育学部教授。専門は日本中世絵画史。著書に『絵巻における神と天皇の表現——見えぬように描く』(中央公論美術出版、2006年)、『絵巻の図像学——「絵そらごと」の表現と発想』(勉誠出版、2012年)、『図像学入門——疑問符で読む日本美術』(勉誠出版、2015年)、『はじめての日本美術史』(山川出版社、2018年)、『物語る仏教絵画——童子・死・聖地』(勉誠社、2023年)など。

定価 2,640円・本体2,400円
四六判並製カバー装・272頁
2024年4月刊行
ISBN978-4-585-37014-7 C0071

書名	冊数
増補改訂版 図像学入門 疑問符で読む日本美術 山本陽子<著>	定価 2,640円・本体2,400円 四六判並製カバー装・272頁 2024年4月刊行 ISBN978-4-585-37014-7 C0071
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <http://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 〔編〕

訂正新版

定価三、八五〇円(税込)

本体三、五〇〇円(十税)

二〇二三年十一月刊行

A4判並製カバー装・総カラー・二二四頁

ISBN978-4-585-30010-6 C1500

※本書は『図説書誌学』(二〇一〇年初版発行)の訂正新版です。訂正新版刊行に際し、誤字・脱字等の訂正を施しました。

図説

書誌学

古典籍を

学ぶ

「書物」という文化遺産の継承のために

有史以来蓄積されてきた「書物」は、人間の英知・思想・思考・情感といった精神活動が、最も明瞭に集約表出されたかたちで伝承されてきた、学術文芸の遺産である。

この「書物」は、なぜここにこのように存在するのか——「書物」との真摯な対話により、過去から現在、そして未来へと連なる人間の知的営みの一端に自らリンクすることが出来るのである。



I 書物との対話——書誌学研究所の視点

はじめに——書誌学とは

第一章 本の姿

表紙の役割／紙墨の表情／書物の形／変化する書物

第二章 本の様々

漢籍と和書／漢字と仮名／文字と絵／コトバとモノ

第三章 本の誕生

誕生以前／自筆本／転写本・影写本・臨写本

第四章 本の流通

版下・校正刷り／翻刻本／摸刻本／伝写本

第五章 版本の時代

宋元版／明清版／朝鮮版・越南版／五山版・古活字版／和刻本

第六章 本の再生

付点・書入れ・批評／校合／入門書・工具書

第七章 書誌学の発達

目録学の発達／版本学の発達／考証学と近代

II 斯道文庫の五十年——これまでとこれから

・ 斯道文庫の五十年

・ 書物の収集と保全

・ 椎本文庫／浜野文庫／安井文庫／坦堂文庫／コレディエ文庫／亀井家学文庫／明治仏教史編纂所蔵書／センチユリー文化財団寄託資料／大曾根文庫／河村文庫／平岡文庫／松林桂月文庫／林泰輔自筆稿本類／ガス・パルトス文庫／永島文庫／戸原文庫

・ 斯道文庫年表

・ 斯道文庫蒐書の歴史

・ 出張調査年表

・ 研究事業・研究成果・公開事業

・ 執筆者一覧／書誌学用語索引

本書の特徴

昭和三十五年(一九六〇)の開設以来、書誌学の専門研究所として学界をリードしてきた斯道文庫所蔵の豊富な古典籍の中から、特に書誌学的観点から重要なものを選出、豊富なカラー図版・解説を通覧することで、書誌学の理念・プロセス・技術を学ぶことが出来る。



書名	冊数
訂正新版 図説 書誌学 古典籍を学ぶ 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〔編〕	冊
定価 3,850円(税込)・本体3,500円	
A4判並製カバー装・224頁	
2023年11月刊行	
ISBN978-4-585-30010-6 C1500	
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。

東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 http://bensei.jp/

〈編〉

本

かたちと文化

古典籍・近代文献の見方・楽しみ方

写本、
版本、
明治期に
作られた書籍

日本の古い本には色々な形があり、それを構成する部品、作られた時代も様式も様々である。これらの「本」には何が書かれているのか。そもそも「本」のどこをどのように見ればいいのか。くずし字はどう読めばいい？ 捺されているハンコは何を意味しているのか？ 表紙の模様にはどのような意味が隠されているのか？ 一流の研究者たちが丁寧にわかりやすく解説する。多数の図版とともに楽しむ、充実の古典籍・近代文献の入門書！

CONTENTS

- 刊行に寄せて……渡部泰明
はじめに——「本」を学び楽しむために……海野圭介
- 講義 1 ◎ はじめての古典籍……神作研一
〔コラム〕亀甲パーレン〕のこと……神作研一
- 講義 2 ◎ くずし字——昔の人びとの文字をどう読むか……桑汐里
- 講義 3 ◎ 写本——奥書・識語から本の来歴と素性を知る……海野圭介
〔コラム〕書物を切る——古筆切という資料……海野圭介
- 講義 4 ◎ 版本——刊記・奥付から印刷文化を探る……木越俊介
〔コラム〕国書データベースで複数の画像を比較するには……木越俊介
〔コラム〕『彩画職人部類』再刻』を検証する……木越俊介
- 講義 5 ◎ 装訂と料紙——本の「かたち」から何を読みとるか……落合博志
〔コラム〕写本を模倣する古活字版——落合博志
〔コラム〕表紙は装訂です——付新出化紙綴じ二種……神作研一
- 講義 6 ◎ 表紙文様——本を彩る意匠の世界……齋藤真麻理
〔コラム〕表紙ウラの楽しみ……齋藤真麻理
〔コラム〕文様と奈良絵本……齋藤真麻理
- 講義 7 ◎ 印——本に捺されたハンコは何を伝えているのか……松永瑠成
〔コラム〕史料としての貸本印……松永瑠成
〔コラム〕印主の調べ方……松永瑠成
- 講義 8 ◎ 江戸の出版文化——古活字版を中心に……入口敦志
〔コラム〕日本出版史の謎……入口敦志
- 講義 9 ◎ 近代本の世界——近代資料の作り方・（残し方・読み方）……多田蔵人
〔コラム〕ナポレオンの妻の物語……多田蔵人
〔コラム〕普通の本の大切さ……多田蔵人
〔コラム〕蔵書形成の意義——国文研のコレクション紹介を兼ねて……木越俊介・齋藤真麻理
- 参考文献リスト——工具書を中心に
国文研を利用しよう

定価 3,080円・本体2,800円
A5判並製カバー装・288頁
2024年2月刊行
ISBN978-4-585-30011-3 C1000

書名	冊数
本 かたちと文化 古典籍・近代文献の見方・楽しみ方 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館 〈編〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編)

古文書修復講座

歴史資料の継承のために

歴史資料を残し、伝えていくために――

日本においては、歴史を伝える資料、

特に古文書・古記録などの紙を利用した史資料が多く残されている。

これらは博物館や資料館、図書館などで管理されているもののみではなく、家屋や倉庫などの奥底、さらには襖の下張りや表紙の裏などに残され、破損・水損・虫害など、さまざまなリスクに囲まれている。

傷んでしまった史資料は、どのように対処し、管理していくべきなのか。

長年にわたり、古文書の調査のみならず保存・管理の方法論を検討し、史資料の取り扱いかたのレクチャーを行ってきた

神奈川県立日本常民文化研究所のノウハウ・知見を、

豊富なカラー写真とともに余すところなく紹介する必備の一冊。

博物館・資料館・図書館等、 古文書を取り扱う方々に必携の書

【監修者プロフィール】

神奈川県立日本常民文化研究所

日本民衆の生活・文化・歴史を多様な領域において調査・研究する、神奈川県立日本常民文化研究所の学際的研究機関。

1921年に渋沢栄一の孫である渋沢敬三が創設した“アチックミュージアムソサエティ”を前身として、日本各地の生活文化、中でも民具や水産史の研究を中心に活動を進め、戦前・戦後の日本常民文化研究所を経て神奈川県立に招致され、2021年で創立100周年をむかえた。

2023年には、神奈川県立日本常民文化研究所は博物館相当施設に指定され、常民文化ミュージアムがリニューアルオープンしている
(<http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/about/>)。

【編者プロフィール】

関口博巨(せきぐち・ひろお)

1960年生まれ。神奈川県立日本常民文化研究所国際日本学部准教授。専門は日本近世史。著書に『近世村落の領域と身分』(吉川弘文館、2021年)、『古文書を学ぶ』(御茶の水書房、2021年)、論文に『水軍の記憶』を編む――二神種章の歴史叙述』(『歴史と民俗』35、平凡社、2019年)などがある。

【もくじ】

はじめに…関口博巨

1.古文書修復実習開催の背景

古文書返却の旅

常民研による古文書修復のはじまり

恒例化した古文書修復実習

2.本書の構成

古文書修復(1):記録・解体(実習1)…白水智

古文書修復(2):修理―古文書の裏打ちと繕い(実習2)…山口悟史

古文書修復(3):復原(実習3)…関口博巨

下張り文書の剥離と洗浄(実習4)…平田茉莉子・中村 慧

整理(実習5)…白水 智

column

古文書を食べる虫…山口悟史

近現代史料の整理をはじめ前の手当て…平田茉莉子

水損古文書を救う―乾燥・洗浄処置と開披方法…山口悟史

古文書修理の接着剤…山口悟史

モノとしての古文書と民具―複合資料論の試み…関口博巨

民具と古文書の間…石野律子

偽作された古文書…日座久美子

表具師・経師と修復…平田茉莉子

渋沢敬三が求めた「常民古文書」…窪田涼子

時代をまたぐ史料をどのように整理するか…白水 智

神奈川県立日本常民文化研究所について

あとがき…関口博巨

執筆者紹介

カラー図版
約350点
掲載!

書名	部数
古文書修復講座 歴史資料の継承のために 神奈川県立日本常民文化研究所(監修)・関口博巨(編者)	部
ご送付先ご住所・氏名(通信欄)	

定価 4,180 円(本体価格 3,800 円)

B5判並製カバー装・フルカラー 192頁
ISBN978-4-585-32035-7 C1021
2024年3月刊行

定価 4,180 円(本体価格 3,800 円)

B5判・並製カバー装・フルカラー192頁
ISBN978-4-585-32035-7 C1021
2024年3月刊行

日本人は漢文を どう読んだか 直読から訓読へ

湯沢質幸 [著]

日本において古代から現在に至るまで延々と読み継がれてきた漢文。その読み方には中国から渡来した中国音で読む〈直読〉、そして、平安時代に生まれ、漢文読解の方法としてその地位を確立した〈訓読〉の二種類が存在する。しかし、古代から現代までの間に〈直読〉は消え、日本語で読む〈訓読〉がもっぱら使われるようになった。なぜ、日本では〈訓読〉優位の状況が生じたのか——漢文を取り巻く環境を一つ一つ分析することを通して、日本人の漢字漢文受容の歴史を描きます。

目次

本書の目的

凡例

第一章 直読と訓読

——現代と平安時代——

第二章 平安時代儒学界の直読と訓読

——『宇津保物語』と『北山抄』『江家次第』——

第三章 〈直読から訓読へ〉

——直読の衰退——

第四章 平安時代の訓読

——『白氏文集』——

第五章 『宇津保物語』併存の再検討

第六章 平安時代儒学界と直読

第七章 儒学界と仏教界

第八章 〈直読から訓読へ〉の周辺

結語

参考文献

後記

執筆者紹介

(ゆざわ・ただゆき)一九四三年群馬県前橋市生まれ。

専門は日本語史研究。東京教育大学文学研究科修士課程修了。博士(文学)筑波大学。佐伯国語学賞。山形大学、筑波大学、京都女子大学に勤務。

著書に『唐音の研究』(勉誠社、一九八七年)、『日本漢字音史論考』(勉誠社、一九九六年)、『古代日本人と外国語』(同)『増補改訂』(勉誠出版、二〇一一年)、『音声・音韻探求法』(松崎寛と共著、朝倉書店、二〇〇四年)、『近世儒学韻学と唐音』(勉誠出版、二〇一四年)、『漢字は日本でどう生きてきたか』(開拓社、二〇一七年)などがある。

定価 3,520 円(本体価格 3,200 円)

四六判・並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-38006-1 C1081
2024年5月刊行

書名	部数
日本人は漢文をどう読んだか 直読から訓読へ 湯沢質幸 [著]	部
定価 3,520 円(本体 3,200 円) 四六判・並製カバー装・240頁 ISBN978-4-585-38006-1 C1081 2024年5月刊行	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	